

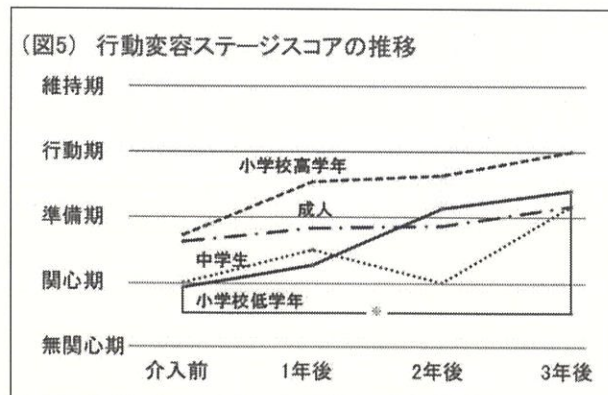
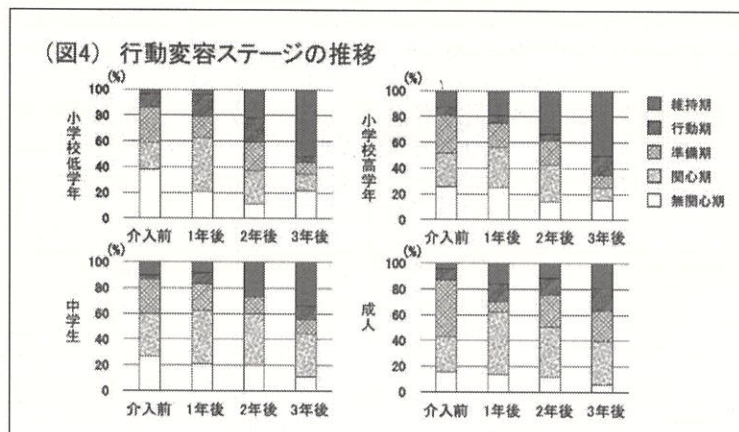
行動変容ステージの推移

階層別の行動変容ステージの、介入開始前、介入開始1年後、2年後、3年後（最終調査時）の推移を図4に示す。

小学校低学年群、小学校高学年群、中学生群では次第に維持期の者が増加し、介入3年後には、維持期の者が小学生群では約50%、中学生群では約30%となった。一方、成人群においては介入3年後における維持期の者は約20%にとどまっていた。

また、階層別の行動変容ステージスコアの、介入開始前、介入開始1年後、2年後、3年後（最終調査時）の推移を図5に示す。

いずれの階層においてもグラフは右肩上がりであった。小学校低学年群において介入3年後のスコアは介入前のスコアより有意に上昇していた。



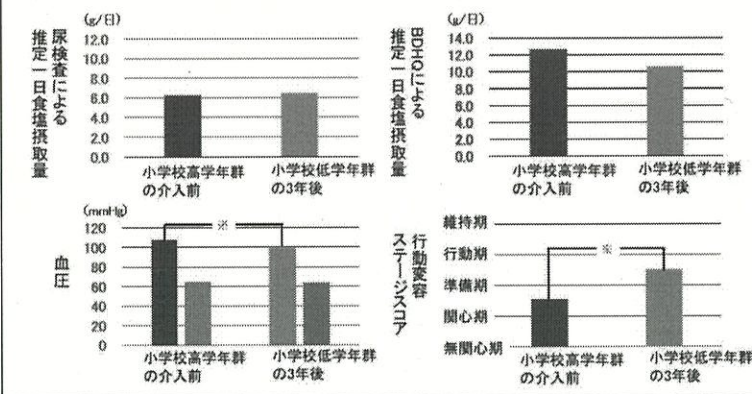
開始時小学校高学年群の介入前と開始時小学校低学年群の最終調査時の比較、および開始時中学生群の介入前と開始時小学校高学年群の最終調査時の比較

開始時小学校高学年群の介入前と開始時小学校低学年群の最終調査時（小学校高学年になっている）の各評価項目の比較を図5に、開始時中学校群の介入前と開始時小学校高学年群の最終調査時（中学生になっている）の各評価項目の比較を図6に示す。

開始時小学校低学年群の最終調査時の収縮期血圧は、開始時小学校高学年群の介入前の収縮期血圧より有意に低かった。開始時小学校低学年群の最終調査時の行動変容ステージスコアは、開始時小学校高学年群の介入前のスコアより有意に高かった。

開始時小学校高学年群の最終調査時のBDHQによる推定一日食塩量は、開始時中学生群の介入前の値より有意に低かった。開始時小学校高学年群の最終調査時の行動変容ステージスコアは、開始時中学生群の介入前のスコアより有意に高かった。

(図6) 小学校高学年群の介入前と小学校低学年群の3年後の比較



(図7) 中学生群の介入前と小学校高学年群の3年後の比較

